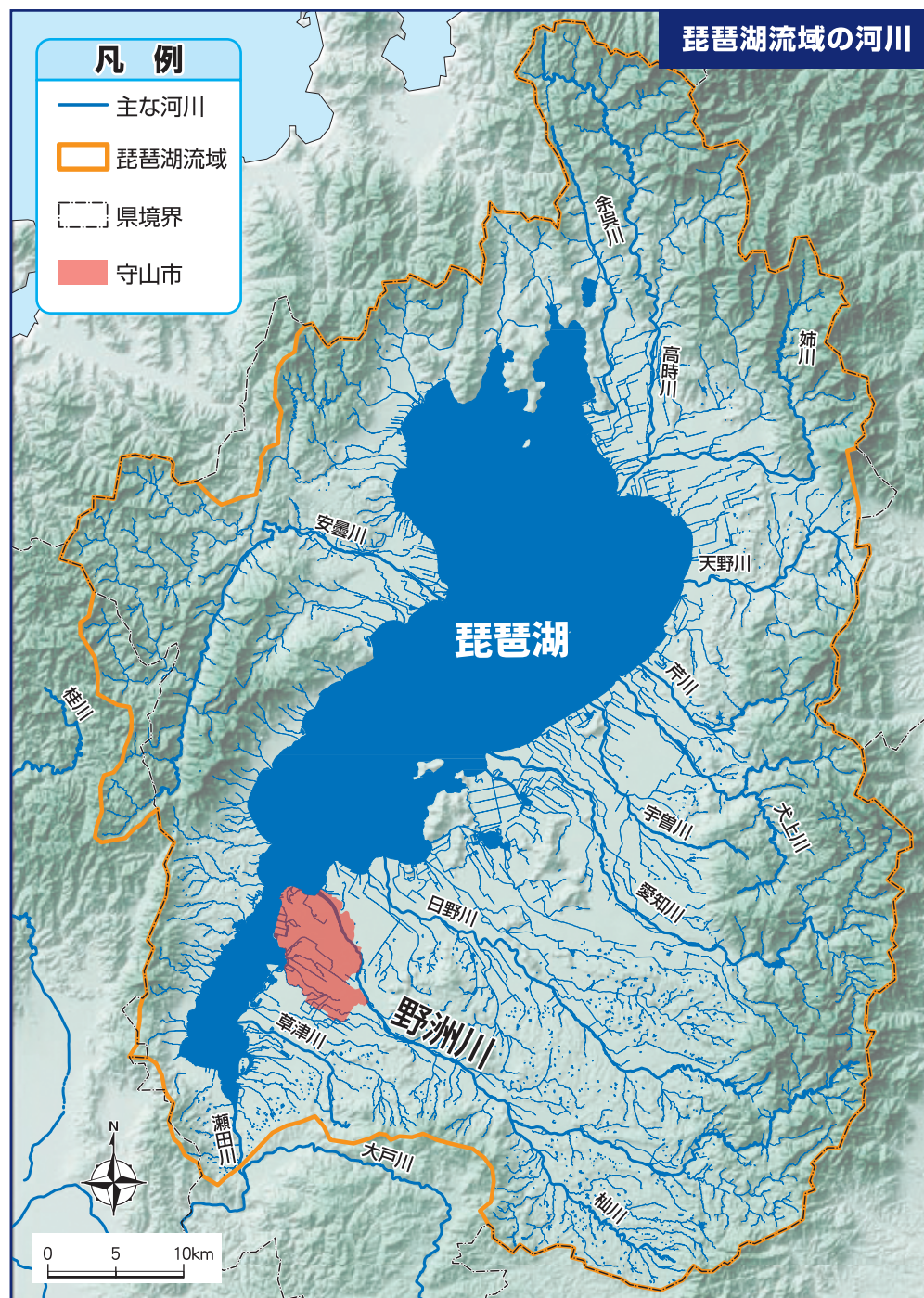


### 3-1. 守山市と水害

守山市の市域は、野洲川のはん濫とともにあり、昔は数年おきにはん濫が繰り返されていました。明治29年9月の大雨の時には、市域の70%が浸水したと記録されています。

近年は、堤防などの整備が進んだことにより、大規模な水害の危険性は軽減しました。しかし、その一方で、近年では地球温暖化の影響等により、大雨が降る可能性が高まっています。想定を超えるような大雨が降り続くと、これまでの整備を進めてきた堤防だけでは対応しきれない事態が発生する可能性があります。

本防災マップでは、水害編として、予め想定される水害の被害状況を把握できるように、国や県が実施したはん濫シミュレーション結果を示しています。市の水害特性を知り、いざという時に自分や家族、地域の安全を確保するために何ができるかを考えてみましょう。



「この地図は、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)及び数値地図25000(空間データ基盤・滋賀)を使用したものである。」

### 3-2. 市の地形を知ろう

野洲川は、琵琶湖に流れ込む県内屈指の大川です。かつては「近江太郎」といわれたほどの暴れ川で、記録に残るような大災害を何度ももたらしました。しかし、その反面人々の暮らしを育む豊かな川としていつもそばにありました。

市域には、野洲川が昔流れていた場所(旧河道)が地形として残っています。最も明瞭で規模が大きい旧河道は、市南部から草津市との境界沿いに見られます。また、昭和54年に野洲川放水路が完成するまで2つに分かれていた南流・北流の旧河道も確認することができます。

#### ◆守山市の断面図(横断面図)

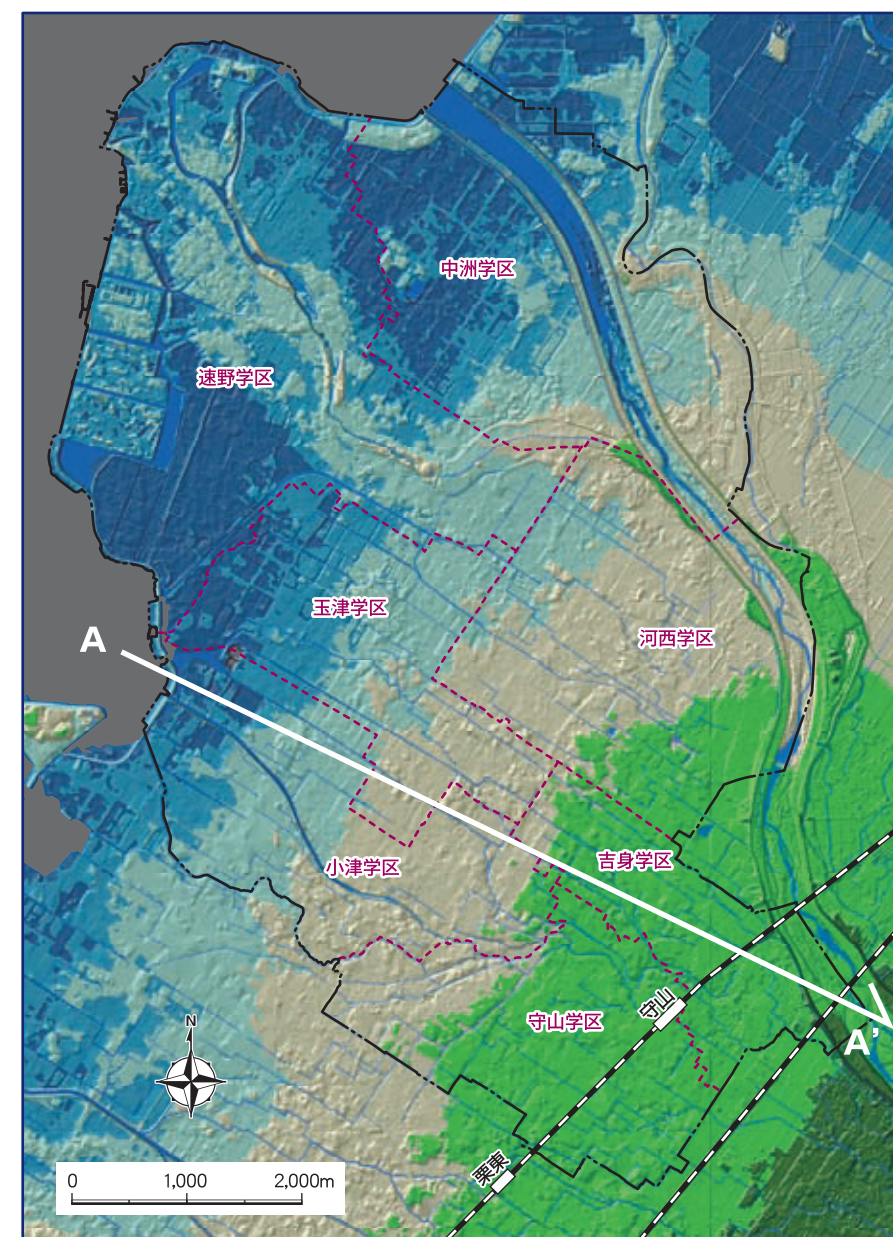


#### ◆守山市の地盤高図

右図は、琵琶湖基準水位(B.S.L.)を0mとした場合の、守山市の地盤高さについて表現したものです。



「この地図は、国土地理院発行の基盤地図情報 数値標高モデル5mメッシュ(標高)を使用したものである。」



地震編

水害編

原子力災害編

共通編

地震編

水害編

原子力災害編

共通編